

ごあいさつ

山陰合同銀行では、2020年度中間決算の概要、経営方針及びお客様への思いを綴った、「山陰合同銀行中間期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。ご高覧のうえ、当行へのご理解を一層深めていただければ、幸いに存じます。

Withコロナ時代を地域・お客様と共に歩む

2020年は新型コロナウイルスへの対応に翻弄され、瞬間に月日が過ぎたように感じられます。新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収束を見通せず、世界各地で経済・社会活動に甚大な影響を及ぼしています。当地においても新型コロナウイルスの影響で地域経済は大きな打撃を受けており、非常に厳しい経営を強いられているお取引先が多くあります。なかには、ビジネスモデルの転換を模索していらっしゃるお取引先もあります。

こうした状況において地域やお客様を支え、共に新型コロナに打ち勝ち、共に豊かな将来を築いていくこそが、我々地域金融機関に与えられた使命だと考えています。2020年4月には行内に「新型コロナ事業支援チーム」を立ち上げ、影響を受けられたお取引先への支援を最優先に対応しています。資金繰りはもとより、様々な事業支援活動に銀行全体を挙げて取り組んでいるところです。

また、お取引先同様、当行もビジネスモデルの再構築に危機感を持って取り組んでいます。ここでキーワードとなるのが、コンサルティングとデジタルです。この2つを両輪に、Withコロナの時代においても収益力のある銀行となり、将来にわたって地域社会やお客様に貢献し、共に成長していきたいと強く思っています。

お客様の課題解決活動の進化

当行では以前から、地域・お客様の課題を解決し、付加価値を向上させる活動を幅広く行ってきました。近頃はコロナ禍により、お取引先のなかでIT技術の導入や人材確保のニーズが特に高まってきています。こうした情勢を踏まえ、的確なIT技術の導入をサポートする「ICTコンサルティングサービス」や、経営幹部人材や専門技術人材をご紹介します「人材紹介業務」も新たに開始いたしました。

また、野村證券(株)との業務提携に基づき、2020年11月までに山陰両県6か所でおお客様の窓口となるコンサルティングプラザを開設いたしました。両社の強みを活かした質の高いサービスを提供していき、地方における証券ビジネスの新たなモデルを確立していく意気込みです。

Withコロナ時代、社会や生活様式が新たなものへと変化しつつあるなか、当行がこれまで蓄積してきた法人の事業支援や個人のライフプランにおける知見・ノウハウを総動員させ課題を解決するとともに、当行自身も進化することで、地域・お客様と共に歩んでまいります。

地域の持続可能性を高めるため、SDGsの理念を普及啓発

こうした新たなビジネスモデルを構築していくにあたり、SDGsの観点も重要項目となっています。先般、政府は二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにすると発表し、国を挙げて機運が高まるなか、中小事業者にとっても他人事ではなくなりつつあります。

当行は、地域社会にこうした理念を広める役割を果たすべく、これまでJ-クレジットの活用による排出権取引支援に取り組むなど、お取引先の環境・社会貢献意識を高める活動を推進してきました。さらに、最近では、SDGsに関する研修・講演会の開催や「ごうぎんSDGs私募債」による発行企業との地域の課題解決の推進などに取り組んでいます。今後も地域の旗振り役となり、本業を通じて地域社会の持続可能性を高めていきます。

皆様には、今後ともより一層のご支援・ご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2021年1月

取締役頭取 山崎 徹

